

1月8日（3学期始業式）

「あなた」ではない「私」を創る

今からちょうど30年前の今日、1989年1月8日、平成という時代が始まりました。私は大学4年生でした。当時、昭和天皇の病状が刻々とテレビのテロップで流され、予断を許さない状況にあることが伝わってきました。刻一刻と時代の終わりが近づいていることを感じていたのを昨日のことのよう思い出します。あれから30年の月日が流れました。当時、スマホはおろか、携帯電話もデジカメもなく、インターネットも普及していませんでした。音楽はレコードやカセットテープで聞いていました。この30年はデジタル化、情報化、グローバル化、少子高齢化、そして東京一極集中も一気に進んだ時代でした。そして今、まさに私たちは次の時代の転換点に立っています。

また、3年生にとっては人生の大きな転換点でもあります。生まれ育った実家を離れて一人暮らしをしながら上級学校に通う人もいますし、社会人としての一步を踏み出す人もいます。そして、今はまだ人生の岐路に立っている3年生もいます。11日後に大学入試センター試験に挑む3年生です。人生は「挑戦」の連続です。そしてその先にあるものは学びと成長です。人生に行き止まりはありません。歩みを止めない限り、必ず未来へと続く扉があります。それが人生です。堂々と関門にチャレンジしてください。

いつの時代であっても未来は不安定、不確実、不透明なものです。ただ一つ確実なことは、テクノロジーが生活の質、仕事、仕事の在り方を大きく変えようとしている時代の入り口に私たちは今、立っていることです。例えば、未来予測で言うと、皆さんが20代になる頃、空飛ぶタクシーの実用化が始まります。30代になるとチップを人体に埋め込んで、キャッシュレス決済が始まります。皆が40代の頃には、人の分身として遠隔ロボットが仕事を遂行してくれます。そして50代になると宇宙に行けるエレベーターが開発されます。まるでSF小説が現実になるような時代くると予測されています。

皆さんは次の時代の主役です。社会のリーダーです。将来的にはAIが人間の知能を超えと言われていたり、今人間がやっている仕事の半分はAIやロボットがやる時代が来るとも言われています。これから生きる皆さんに必要なものは、「自分」という人間を創っていくことです。「あなた」ではない「私」を創ることです。そのためには、既存の価値観にとらわれず挑んでいく意欲を持つ。なりたい「私」を設定して、何をしなければならぬかを自分で考える姿勢を持つ。そして、他人の目や尺度ではなく、自分のものさしを作っていくことです。何か難しいな、と思うでしょうが、簡単です。今日から「何事も自分で〇〇〇する」ということです。この「自分で」というのがミソです。

「自主性」と「主体性」ということばがあります。「自主性」というのは、やるべきことが明確に決まっていて、それを他人に言われたり、指示されて行動するのではなく、自ら率先して行動することです。例えば、宿題、掃除、部活の筋トレとか、やらなければならないことがあります。自分の意思で、なぜこれをやらなければならないかということを実感して、率先して取り組んでいくことです。

次は、昨年、大リーグで新人王を獲得した大谷翔平選手のことばです

誰よりもトレーニングをやってきたという自信はあります。やらされたメニューではなくて、今取り組んでいるトレーニングがどういう成果に結びつくのかをちゃんと理解してやってきました。自分で進んでやるのとやらされているのでは成果は大きく違ってきます。

これが自主的に取り組むということですね。やらなければならないことに自ら率先して行動できる人、そういう人を時代は求めています。

では、「主体性」とは何でしょうか。今やらなければならないことは何かをまず自分で考えなければなりません。そして自分で判断して、自分で行動するということです。例えば、バスに乗っていたらおじいさんが乗ってこられました。満席で座るところがありません。さあ、自分ならどうしますか。答えはありません。黙って座っていてもいいんです。誰かが譲ってくれたらいいのになあと思いながら傍観していてもいいんです。寝たふりしててもいいんです。席を譲りたいけども「どうぞ」という勇気がないので何も行動しない人もいるでしょう。正解はありません。自分はこの状況をどう判断し、どう行動するか。これが「主体性」です。的確に状況を判断し、行動に移せる人、そういう人を時代は求めています。

学習でも部活動でも、私生活の中でも、今年は「自主性」と「主体性」というキーワードを頭において意識して自分で行動してみてください。行動するには勇気が必要な時もあります。勇気を持って行動すれば、必ず人は変わり、成長します。他の誰でもない、「私」という人間を一生懸命創っていきましょう。それが私たちのキャッチフレーズ「リニューアル宣言」です。

それでは最後に、福田 了允さんの「伝えたい何か」という本からの一節を放送部の●●さんに朗読してもらい、私の話を締めます。

「伝えたい何か」 福田 了允（ふくだ りょういん）

君はふと立ち止まった・・・

このままじゃいけないと思っているのに

何をすればいいのか分からない振りして

目をそらし続ける

ありきたりの毎日に別れを告げたいはずなのに

君は「いつか」という言葉を支えにただ待っている

「だって」「でも」「どうせ」

君の脳裏をかすめるいくつかの言葉たち

君は何を期待しているの？

君が変わらなければ何も変わらないってこと

もうとっくに気づいているはずなのに

みんな進んでいく中で

君はいつも置いてけぼり

君はただ怖いんだよね

つまずくこと
そして失敗することが・・・
ただ立ちすくんでいる君へ
どんなに失敗しても
後ろに帰ることなんてないんだよ
少しずつ少しずつ
君自身も変わっているのだから
僕が伝えたいモノ

それは勇気です。